

暖地におけるイネ縞葉枯病の防除に関する研究

第4報 直播栽培における播種期と発病について

上原等・佐藤芳久

4月下旬から6月下旬の間にわたり,早生,中生および晩生の5品種を供試して乾田直まき栽培の播種期と縞葉枯病発生との関係を試験した結果,どの品種とも早まきほど発病が多かった。5月下旬以前の早まきは本病の発生がとくに多く,作柄が不安定であり,常に早まきによる増収性よりも発病被害の方がまさり適当な播種期とはいいにくい。これは早まきほど,6月上中旬のヒメトビウンカ第2回成虫多発期に生育がすみ,ヒメトビウンカの生息数が多くイネの感受性も高いためと考えられた。

6月第2半旬から第4半旬にまいたものは発病が少なくかつ収量も早まきに比較してまさっており,本県での乾田直まき栽培の播種適期は,本病の多発するかぎりには6月第2半旬から第4半旬の間にあるように考えられる。